

〈研究授業報告〉

令和六年度第七十二回県研究授業を参観して

嘉穂高校 高野 瑞貴

令和六年度十一月十三日(水)福岡県立稲築志耕館高等学校において、山田桃子教諭による「書道」『漢字の書』楷書創作く意図に基づいた表現く」の研究授業が行われた。研究部会長長田中憲育校長先生、高校教育課高口盛幸指導主事、福岡教育大学和田圭壮教授をお迎えし、五十四名の参加であった。

今回の研究授業の対象生徒は第一学年に所属する十九名。根拠を持って、自分の作品紹介や他者へのアドバイスができるようになることを目標としていた。

《授業の流れ》

- 一、創作する二字熟語を半切1/2サイズに試し書きし、その試し書きから伝えたい印象が感じ取れるか確認する。
- 二、自身の表現意図をもとに、表現の工夫ポイント(墨の潤濁・文字の大・小・線の太細)と、二字の配置を工夫して構想する。
- 三、中間作品①を制作する。
- 四、観点ごと(1)古典の特徴(2)表現の工夫ポイント)で班員を変え、相互鑑賞を行う。
- 五、他者からの意見をもとに、中間作品②を制作する。

研究授業を参観して、鑑賞活動による言語化能力の育成方法を学ぶこ

とができた。具体的で根拠のある言語活動を行うために例文を提示したり、付箋を用いて文章化させ、他者に意見を伝えられるよう支援する方法は、大変参考になった。生徒たちも、鑑賞活動に迷いなく取り組み、活発な意見交換ができていた様子だった。また、他者からももらった沢山の意見から、感じ方の多様性を知り、意見を全て作品に取り入れるのではなく、自分の表現意図を大切にしながら、取り入れられそうなものをつか二つ選んで課題とする方法は、生徒のモチベーションにもつながっているのを感じて非常に勉強になった。今回学ばせていただいたことを実際に自身の授業に生かしてみたが、どの生徒も楽しそうに主体的に取り組み、以前より記述力がかなり高くなったのを感じて、とても嬉しかった。

